

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
阿波市	柿原地区	令和3年9月30日	令和6年3月15日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	237ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	139ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	25ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	8ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	21ha

## 2 対象地区の課題

ブランドとして確立されたレタスをはじめとした野菜生産や乳用牛を中心とした畜産農家も多い。75才以上で後継者未定の農業者の耕作面積よりも、今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の方が多くなっているが、アンケートの回答がない後継者未定の農業者も多数いることが見込まれ、新たな農地の受け手の確保が必要である。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

柿原地区の農地利用は、中心経営体である認定農業者等の48経営体が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。

## 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

## 農地の貸付け等の意向把握と農地中間管理機構の活用方針

農業委員会、農業協同組合等の関係団体と連携して、農地の貸付け等の意向把握に努め、将来の経営農地の集約化を目指し、農地中間管理機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。

## 基盤整備への取組方針

農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、地域の意向に基づき、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備について検討する。

## 作物生産に関する取組方針

市のブランド育成品目を中心に、収益性の高い園芸作物の生産や、特産加工に向けた作物の生産に取り組む。

## 鳥獣被害防止対策への取組方針

鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業等を活用しての捕獲活動や、捕獲体制の構築等に取り組む。

## 2. 今後の地域の中心となる経営体（中心経営体）

属性	経営体 (氏名)	現状 〔令和5年度〕		計画 〔令和15年度〕	
		経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数 等)	経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数等)
認農法		ブロッコリー・ キャベツ・キュウ リ・トマト	1.6 ha	ブロッコリー・ キュウリ	30.0 ha
認農		水稲・ブロッコ リー・サニーレタ ス・リーフレタス・ オクラ・飼料作物	5.1 ha	水稲・ブロッコ リー・サニーレタ ス・リーフレタス・ オクラ・飼料作物	5.1 ha
認就		レタス・ブロッコ リー・とうもろこ し・小松菜・オク ラ	0.6 ha	レタス・ブロッコ リー・とうもろこ し・オクラ	0.7 ha
認農		水稲・サニーレタ ス・さといも・ WCS 酪農	4.8 63頭 ha	水稲・サニーレタ ス・さといも・ WCS 酪農	5.15 90頭 ha
認農		レタス・トマト・ ブロッコリー	4.7 ha	レタス・トマト・ ブロッコリー	5.8 ha
認農		水稲・レタス・果 樹	2.6 ha	水稲・レタス・果 樹	2.9 ha
		—	0.0 ha	ブロッコリー	0.5 ha
認農法		ネギ	3.0 ha	ネギ・とうもろこ し	5.0 ha
認農		水稲・レタス・ブ ロッコリー・とう もろこし・ナス	2.3 ha	水稲・レタス・ブ ロッコリー・とう もろこし・ナス	2.5 ha
認農		水稲・レタス・ナ ス	1.5 ha	水稲・レタス・ナ ス	1.5 ha
認農		水稲・レタス・ブ ロッコリー・とう もろこし	4.9 ha	水稲・レタス・ブ ロッコリー・とう もろこし・甘長	6.3 ha
		水稲	3.0 ha	水稲	3.5 ha
認農法		水稲・玉ねぎ・ キャベツ・ブロッ コリー	2.6 ha	水稲・玉ねぎ・ キャベツ・ブロッ コリー	4.5 ha
認農		水稲・レタス・ブ ロッコリー・ナス	2.5 ha	水稲・レタス・ブ ロッコリー・ナス	3.3 ha
認農		水稲・レタス・とう もろこし・ナス	3.4 ha	水稲・レタス・とう もろこし・ナス	3.6 ha

## 2. 今後の地域の中心となる経営体（中心経営体）

属性	経営体 (氏名)	現状 〔令和5年度〕		計画 〔令和15年度〕	
		経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数 等)	経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数等)
認農		水稲・レタス・とうもろこし・ブロッコリー・ナス	1.7 ha	水稲・レタス・とうもろこし・ブロッコリー・ナス	2.3 ha
		いちご	0.2 ha	いちご	0.2 ha
認農法		ネギ	5.0 ha	ネギ・水稲	15.0 ha
認農		水稲・洋ラン	2.7 ha	水稲・洋ラン・レタス・ブロッコリー	3.5 ha
認農		水稲・レタス・とうもろこし・ブロッコリー	3.0 ha	水稲・レタス・とうもろこし・ブロッコリー	3.2 ha
認農		水稲・レタス・ブロッコリー・ナス	6.5 ha	水稲・レタス・ブロッコリー・ナス・枝豆	7.2 ha
		トマト・サニーレタス・ブロッコリー	0.3 ha	トマト・サニーレタス・ブロッコリー	1.0 ha
認農		酪農（経産・育成） 飼料作物	100頭 3.3 ha	酪農（経産・育成） 飼料作物	110頭 4.3 ha
		水稲・とうもろこし・レタス・ブロッコリー	2.4 ha	水稲・とうもろこし・レタス・ブロッコリー	4.6 ha
認農法		水稲・WCS・施設野菜・露地野菜・ブドウ野菜苗	5.7 150,000本 ha	水稲・施設野菜・露地野菜・ブドウ野菜苗	15.7 300,000本 ha
認農		水稲・メロン・トマト	1.8 ha	水稲・ハウスメロン・トマト	1.8 ha
認農		レタス・トマト	2.0 ha	レタス	2.2 ha
認農		ミニトマト・メロン・キャベツ・玉ねぎ・水稲・WCS	9.0 ha	ミニトマト・メロン・キャベツ・玉ねぎ・水稲・WCS	10.6 ha
認農		レタス・ブロッコリー・とうもろこし	2.7 ha	レタス・ブロッコリー・とうもろこし	2.7 ha
認農		ブドウ・花き	1.0 ha	ブドウ・花き	1.0 ha

## 2. 今後の地域の中心となる経営体（中心経営体）

属性	経営体 (氏名)	現状 〔令和5年度〕		計画 〔令和15年度〕	
		経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数 等)	経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数等)
		ネギ・ブロッコリー・きゅうり	8.3 ha	ネギ・キャベツ・きゅうり・いちご	10.9 ha
認農		水稲・レタス・ブロッコリー	1.8 ha	水稲・レタス	0.7 ha
認農		レタス・ナス	2.1 ha	レタス・ナス	2.7 ha
認就		サニーレタス・ブロッコリー・ナス・キュウリ	0.5 ha	サニーレタス・ブロッコリー・ナス・キュウリ	1.2 ha
認就		サニーレタス・ナス	0.4 ha	サニーレタス・ナス	0.9 ha
		水稲 菜の花	3.5 ha	水稲 菜の花	3.5 ha
認農		レタス	0.5 ha	レタス	1.6 ha
		レタス	0.8 ha	レタス	0.8 ha
		水稲・ブロッコリー	6.2 ha	水稲・ブロッコリー・レタス	10.0 ha
		水稲・ブロッコリー	0.8 ha	水稲・ブロッコリー・レタス	1.3 ha
認就		水稲・ブロッコリー	2.6 ha	水稲・ブロッコリー・サニーレタス	6.8 ha
認就		サニーレタス・スイートコーン	0.3 ha	サニーレタス・ブロッコリー・スイートコーン・レタス	2.3 ha
認就		ミニ白菜・オクラ・ピーマン	0.3 ha	キャベツ・ミニ白菜・オクラ・ピーマン・ニラ	3.9 ha
認就		ブロッコリー・キュウリ	0.1 ha	ブロッコリー・トウモロコシ	3.0 ha
認就		ミニトマト	0.1 ha	ミニトマト	0.2 ha

## 2. 今後の地域の中心となる経営体（中心経営体）

属性	経営体 (氏名)	現状 〔令和5年度〕		計画 〔令和15年度〕	
		経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数 等)	経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数等)
認農		水稲	45.0 ha	水稲	46.0 ha
認就		レタス・コーン ゴーヤ・水稲 ブロッコリー	0.8 ha	レタス・コーン ゴーヤ・水稲 ブロッコリー	1.5 ha
認農		水稲・レタス スイートコーン ブロッコリーなど	3.8 ha	水稲・レタス スイートコーン ブロッコリーなど	4.1 ha